

令和 8 年 度

金 山 町 の 教 育

〈かねやま小学校〉



(田植え 5/27・火)



(ヒメマス放流 5/9・金)

〈金山中学校〉



(こんにちは先輩 5/20・火)



(外部講師講演 9/8・月)

金 山 町 教 育 委 員 会

目 次

I 金山町教育策定理由	1
II 金山町教育策定基本方針	1
III 金山町教育基本構想	2
IV 金山町教育重点施策	6
V 地域一体型ふるさと教育事業	15
VI 金山町立各小・中学校の学校教育	
1 かねやま小学校	19
2 金山中学校	27

I 金山町の教育策定理由

東日本大震災から15年が経過した。放射能の影響から一部地域では、いまだ帰還もままならず、福島復興は道半ばである。また、新型コロナウイルス感染症は、令和2年度から全世界に広がり、大都市のみならず県内でも感染が拡大し、多くの死者が出るなど厳しい状況にあった。令和5年度に2類感染症から5類感染症に移行したが、今も感染者が出ている現状にある。さらに、世界情勢は、地政学的な緊張の高まりや経済の不安定化など大きく変動しており、その見通しの不確実性や不透明性が高まっている。また、地球規模の気候変動により自然界では想定のできない未曾有の災害が、世界中どこかの地域といわず突然起きている。そんな中、社会の急激なグローバル化やAI等の技術革新の進展は、政治、経済、教育等の様々な分野に大きな変化をもたらしている。

このような時代において、本県の教育界では、育成したい人間像として「急激な社会の変化の中で、自分の人生を切り拓くたくましさを持ち、多様な個性を活かし、対話と協働を通して、社会や地域を創造することができる人」を掲げ、その実現に向けた教育施策を総合的・計画的に推進するための指針である第7次福島県総合教育計画（実施期間：令和4年度から令和12年度までの9年間）を新たに策定した。

一方、本町では、令和3年度から令和12年度（2021年～2030年）までの10年間を期間とする第5次金山町総合計画を策定した。前期基本計画は令和3年度から令和7年度までの5年間で、令和8年度から令和12年度までの5年間を後期基本計画として策定した。まちづくりのキャッチフレーズを「自然の恵みと 笑顔あふれる かねやま ～思いやり 支えあいのまち～」とし、実現に向けた取り組みを推進している。

こうした県や町の取り組み状況を鑑み、金山町教育委員会としては、「金山町の教育」の改善を前年度の点検・評価を踏まえて行い、時代や地域社会の要請に応じた特色ある教育行政を推進することが強く求められている。

II 金山町教育策定基本方針

- 1 第5次金山町総合計画の趣旨を生かし、前年度の点検・評価と後期基本計画を踏まえ、令和8年度「金山町の教育」を策定する。
- 2 各小・中学校の主体的な学校経営による特色ある教育活動を展開するとともに、生涯学習の推進を始め、体育・スポーツ、芸術文化の振興に寄与できるようにする。
- 3 金山町の特性を生かした事項や内容を随所に入れ策定する。
- 4 策定された事項や内容は、時代の変化や各小・中学校や町民のニーズに応じて弾力的に改善・改革が図られるものとする。

Ⅲ 金山町の教育基本構想

(平成8年9月9日 制定)(平成10年1月28日 平成13年10月1日
平成21年4月1日 平成23年6月7日 平成31年4月1日 令和2年
4月1日 令和3年4月1日 令和7年4月1日 令和8年4月1日 一部改定)

1 町づくりの基本目標と町教育目標

地域づくり、町づくりの根幹は教育にあるとの観点から、教育基本法の目的を踏まえつつ、地方自治の本旨に則り、町づくりと一体化した教育を推進する。

町づくりの今日的課題は、過疎・超少子化・超高齢社会・若者の流出・第一次産業の衰退などいかに対応するかということであり、郷土に生き、郷土とふれあい、郷土で生きる喜びを持てる町づくりのために、各種施策を展開していくことが求められている。また、社会経済環境の変化に伴い、町民の行政に対するニーズはますます多様化・高度化している。

町づくりの基本目標は、令和3年度から令和12年度までの10年間を期間とする第5次金山町総合計画では、キャッチフレーズを「自然の恵みと 笑顔あふれる かねやま～思いやり 支えあいのまち～」とし、住民同士がお互いを思いやり、支え合いながら、金山町ならではの幸せを追求し、町民一人ひとりが幸せを実感できる町を目指す。

このことから、金山町教育目標を「郷土を担う心豊かな人間の育成」と定め、その柱となる基本目標を4項目設定し、子どものための教育、町民のための教育、地域のための教育を、学校教育と家庭教育と社会教育の連携と融合により、総合的に推進する。

教育の内容は、各学校における教育課程の編成・実践・評価・改善のサイクルを重視し、3要素からなる確かな学力を向上させ、自然、郷土、祖先、家族、命などとの関わりを通した心の教育により、社会の変化に主体的に対応できる知・徳・体のバランスのとれた健全な人格の形成を目指す。

◎ 町づくりのキャッチフレーズ

「自然の恵みと 笑顔あふれる かねやま ～思いやり 支えあいのまち～」

◎ 基本目標3 「自然と共生し郷土を愛するひとづくり」



◎ 金山町教育目標「郷土を担う心豊かな人間の育成」

金山町の 教育に おける 目標	(1)	郷土を担う個性豊かでたくましい青少年の育成(学校教育)
	(2)	生きがいに満ちた生涯学習の充実(生涯学習)
	(3)	町民の活力を育む生涯スポーツ活動の充実(生涯スポーツ)
	(4)	次世代につなぐ伝統文化の振興(伝統文化)

2 学校教育の内容と施策

(1) 基本目標の中の学校教育

学校教育に関する基本目標として掲げた「郷土を担う個性豊かでたくましい青少年の育成」の具現を目指す。各学校の伝統と文化を受け継ぎ、創意工夫による特色ある学校経営に努め、教育内容の充実と学力の向上を図る。

(2) 教員の資質向上

教育は人なりという言葉があるように、児童生徒という貴重な宝を直接指導する教員の資質は極めて重要であり、あらゆる機会と場を利用して、教員としての人格と指導力を高めることが大切となる。

そのために、教育委員会としても、学力向上推進会議、小中高連携事業〈授業研究会〉、学校訪問等の制度の効果的な活用、各種研究発表会や研修会への積極的な派遣など、種々の手立てを講じることにより実践的指導力の向上を図り、人柄と愛情と熱意を基盤とした人間教育の使命感にあふれた教員を養成する。

(3) 開かれた学校づくり

地域の教育は、地方自治の一環として行われるものであることに鑑み、地域の特色を生かし、地域の教育的な素材(人材、文化財、伝統行事、四季折々の自然、特産物等)の活用や体育館・校庭等の教育施設の開放を通して地域との連携融合を深め、住民の理解と協力を得られるように努める。

また、住民の意見や要望は真摯に受けとめ、双方向の機能を働かせて、決断と実行のできる事項には誠意を持って対応し、民主的な教育行政を推進する。

(4) 児童生徒数の推移と学校の統合問題

小学校は、昭和50年代に8校あったものが、昭和52年4月の統合で6校、昭和56年4月の統合で3校、平成6年4月の統合で金山小学校と横田小学校の2校となる。その後、令和7年4月の統合でかねやま小学校1校となる。

中学校は、昭和50年代に3校あったものが、昭和53年4月の統合で金山第一中学校と横田中学校の2校となる。その後、平成21年4月の統合で金山中学校1校となる。

3 社会教育の内容と施策

(1) 生涯学習の役割

社会教育は、国際化、情報化、高齢化などの社会の急速な進展に伴って、多様化している。特に、高齢社会を迎えて、従来の社会教育の枠を越えた生涯学習という概念が生まれた。生涯学習に関する法律は平成2年に制定、平成10年に一部改正となり、現在に至っている。

生涯学習は、「いつでも・どこでも・誰もが・何でも」自由な意思に基づき、自分にあった方法により、自己の向上を目指して、生涯にわたり学習することである。

地域の特性を生かした公民館事業、各種学級の開設、社会教育関係団体の育成など、社会教育活動の果たす役割を町民のライフスタイルと学習ニーズに適合させることにより、生涯学習としての機能を働かせる。

(2) 生涯スポーツの役割

町民の健康増進と体力づくりのために、楽しくできる生涯スポーツの推進、スポーツ推進委員の養成、社会体育・スポーツ団体の育成、競技スポーツにおけるレベルアップ、スポーツによる交流人口の開拓、社会体育施設の整備管理を行う。

(3) 伝統文化の振興

芸術文化活動の推進は、金山町文化協会を始めとする文化活動団体の育成に努めるとともに、文化財及び伝承文化の発掘、収集、保存、活動など一貫した保護体制を確立する。

また、文化に対する愛護精神の高揚、芸術文化鑑賞の機会と場を通じた生活の潤いなど、町民の内面的な充実を図る。

4 高等学校教育との関わりと施策

(1) 福島県立川口高等学校との関連性

川口高校の設備及び運営管理は、基本的に県の責任において行われるものであるが、町づくりと町の活性化のためには川口高校の存在と充実が必要不可欠の条件と考えられる。近隣町村である昭和村、三島町、柳津町と連携していくことも考慮し、当町が先導役となり、物心両面からの支援を行い、町民の期待と要請に応え、町の灯りが消えないようにしていかなければならない。

(2) 川口高等学校への支援の在り方

川口高校は、令和7年度には75名の生徒が学んでいる。生徒数は、昭和44年の434名を最高に、本町をはじめとした近隣町村の中学校卒業者が大きく減少している中で、定員を大きく下回る状況が続いていた。

そんな中で、少人数の利点を生かして「一人ひとりが光り輝く主人公」を教育目標として、生徒一人ひとりの学習や進路希望に対応したきめ細かな指導援助を行うことにより、毎年、１００パーセントの就職・進学や国立大学合格を実現してきた。

川口高校の存続については、生徒数激減の中、分校化や募集停止の危機にあったが、平成２９年度に県の提唱する１学年１学級４０人での本校としての存続が認められた。

川口高校は、町内や近隣町村の生徒が自宅から通学できる唯一の高校であり、地域の商業の活性化やＪＲ只見線の利活用等の役割もある。町内や近隣町村の生徒数の増加は望めないので、今後も生徒数４０人の確保に向けて学校の魅力化を推進すると共に、他地域からの生徒募集に力を入れ、川口高校の存続を図っていかなくてはならない。

そのためには、川口高校の学力水準をさらに向上させるとともに、人間性を豊かにし、スポーツや文化など一人ひとりが持っている多様な能力を高める等、学校の魅力化を図ることが大切である。地域社会の要望に応えられるよう近隣町村と連携しながら学校運営に協力して学校の発展充実を図りたい。

さらに、地域一体型ふるさと教育事業や桐径会（学校支援組織）を通して、教育活動・通学費用・寮運営費など経済的な面から支え、生徒数の確保に努めたい。

（３）卒業後の進路における自信と誇り

川口高校卒業生による地元での活躍を期待するとともに、地元を離れて飛び立っていく卒業生の活躍も期待する。やがて、地元でＵターンする成年も大いに歓迎する。要は、川口高校卒業生という自信と誇りを持ち続け、人生をたくましく生きる人間であることを心から願う。

IV 金山町の教育重点施策

1 第5次金山町総合計画（令和3年度～令和12年度）から

町の将来像		
〈将来像①〉 一人一人が輝くまち かねやま こどもから高齢者まで、みんなが希望を持ち、夢や生きがいの実現のために自ら行動することが大切です。 一人一人がその実現のために取り組み、金山町で生活するすべての人が活躍できる町を目指します。	〈将来像②〉 幸せを実感できるまち かねやま 金山町での暮らしを楽しみ、子どもから高齢者まで皆が笑顔でいきいきと暮らすことができる町の実現が重要です。 地域や世代に関係なく、金山町で生活するすべての人が幸せを実感できる町を目指します。	〈将来像③〉 日本のふるさと かねやま 地域の魅力ある大切な資源を受け継ぎながら、豊かな自然環境を守り、ふれあいのある社会環境を育むことが重要です。 自然と調和した日本の原風景ともいえる環境の中で、皆みんなが住み続けたい町を目指します。

キャッチフレーズ

『 自然の恵みと 笑顔あふれる かねやま』
～思いやり 支えあいのまち～

基本目標

目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5
地域力を活かした仕事づくり（産業）	穏やかでいきいきとした暮らしづくり（保健・福祉・医療）	自然と共生し郷土を愛するひとづくり（教育・文化）	安全・安心・快適なまちづくり（防災・生活環境）	参画と協働で共につくるまちづくり（自治・行政）

2 金山町教育目標と分野別目標

金山町教育目標

郷土を担う心豊かな人間の育成

- （1）郷土を担う個性豊かでたくましい青少年の育成（学校教育）
- （2）生きがいに満ちた生涯学習の充実（生涯学習）
- （3）町民の活力を育む生涯スポーツ活動の充実（生涯スポーツ）
- （4）次世代につなぐ伝統文化の振興（伝統文化）

3 金山町教育委員会重点施策

自然と共生し郷土を愛するひとづくり

1 基礎学力と地域に根差した学校教育の充実

現状と課題

町の宝である美しく豊かな自然、住民同士が支え合う風土などを将来につなげていくためには、町民一人一人が郷土を愛する心を持つことが大切であり、それがシビックプライドの醸成にもつながります。将来を担う子どもたちが町の良さを知り、誇りを持つためには、学校・家庭・地域が連携して子育てや教育に取り組むことが重要になります。また、生涯にわたって健全な心身を培い、豊かな人間性を育むために、多様な知識と選択する力を習得し、健全な暮らし方を実践できるような人を育てる事が大切です。

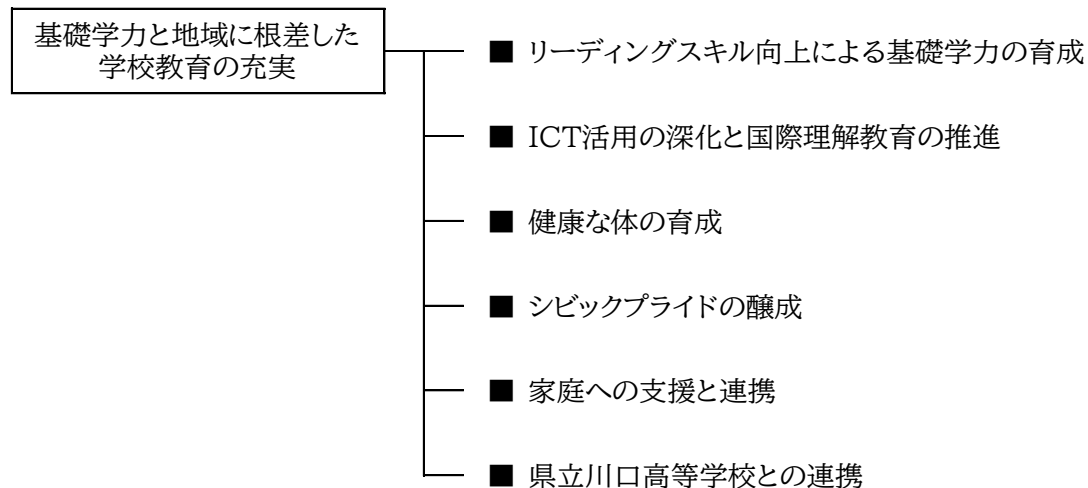
令和7年度には金山小学校と横田小学校が統合し「かねやま小学校」が開校しましたが、小中学校の児童生徒数の減少は続いています。その中で、本町では子育て・就学支援として「奥会津学びの18年」を実施しており、幼少期から18歳までの子どもたちの成長を支援しています。その中で小中学校の児童生徒には給食費や教材費などを無料、県立川口高等学校に通う生徒についても、町営寮の運営や教育活動への補助など、様々な経済的支援を行っており、町民アンケートでも「奥会津学びの18年」は高い満足度となっています。

教育内容については、ICTのメリットを生かした教育を進めるとともに、基礎的読解力（リーディングスキル）向上や国際化が進む現代に対応するための取り組みを始めたところです。時代の流れに遅れることなく、少人数教育の強みを生かしながら、学校・家庭・地域が連携したきめ細やかな教育を引き続き実施していく必要があります。

また、学校施設では地球温暖化により年々厳しさを増す暑さ対策として各教室にエアコンを整備し、子どもたちが集中して学習できる環境整備を行ってきました。今後は体育館のエアコン設置など、子どもたちはもとより災害時の避難所機能も念頭に学校施設の整備の検討を進めることが重要です。

今後も、学校外での交流や学びの機会を積極的に作り出し、小規模校の課題を解消しながら特色ある教育の充実を一層進める必要があります。

施策の体系



主要施策

(1)リーディングスキル向上による基礎学力の育成

児童生徒が将来にわたって豊かな人生を送るため、多様化・複雑化する社会に適応できる思考力・判断力・表現力を高めます。そのために、教師の授業力を高め、学び考える力の基礎となる学校の授業の充実と、多様な学習機会の充実を図ります。

(2)ICT活用の深化と国際理解教育の推進

GIGAスクール構想実現に向け、児童生徒へのタブレット端末配備や授業等での活用を引き続き支援します。ICT 支援員のさらなる活用により教師の指導体制の強化を図ります。

また、ALT(外国語指導助手)の活用や外国語学習施設への宿泊体験などを通じて、国際理解教育の充実を図ります。

(3)健康な体の育成

子どもの体力向上と健康増進を図るため、授業や部活動の充実はもとより、専門家による指導や町内スキー場の利用促進などに取り組めます。

また、近年の気候変動も考慮し、夏季でも快適に運動できる環境づくりを進めます。

(4)シビックプライドの醸成

豊かな自然や地域の歴史・資源・まちの課題を学ぶことで、自分が育った地域に対する理解と愛着を深めるとともに、郷土を担う心豊かなひとづくりを推進します。あわせて、学校と地域が連携した自然や郷土を学ぶ機会の充実を図ります。

(5) 家庭への支援と連携

子育て世代の経済的負担を軽減するため、小中学校の給食費・教材費・入学準備時学用品および運動着費・修学旅行費の無料化を継続します。あわせて、スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーなどと連携し、子どもの悩みや不安を受け止め、問題解決の支援を行います。

(6) 県立川口高等学校との連携

県立川口高等学校は町にとって重要な学校であり、町は学校の魅力向上と生徒確保の一環として、地域みらい留学事業に取り組んでいます。今後も県内外の多様な地域からの入学希望者が増え、卒業後に町に残る・戻る機運を醸成する取り組みを進めます。

また、川口高校には県外からの生徒も多く在籍していることから、寮の運営・支援を行っていくとともに、生徒の通学費補助、資格取得事業などを継続していきます。

2 生涯にわたる学びと交流機会の充実

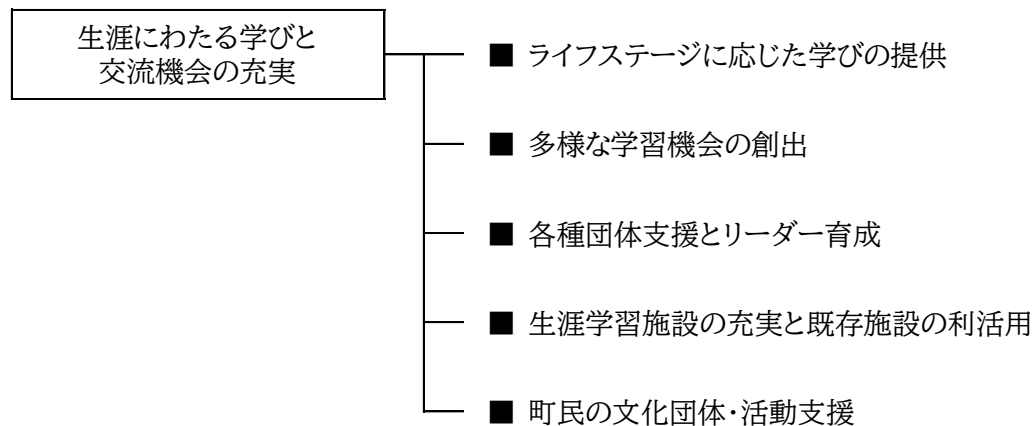
現状と課題

「人生100年時代」を迎え、日本は健康寿命が世界一の長寿社会となりました。「物の豊かさ」から「心の豊かさ」へと価値観が変わる中、社会生活環境は複雑化し、人それぞれ様々なかたちで人生を送るようになっていきます。この傾向は町においても同様であり、生涯にわたりそれぞれのライフステージに合わせて知識や能力を身につけることができる学習機会が求められるようになりました。長い人生の中で、生涯学習を通じて「生きがい」の発見につながる事が期待されます。

町は少子化や現役世代の減少により地域の様々な場面で担い手が不足し、地域社会全体の教育力低下が懸念されています。生涯学習の現場においても、学びを推進する担い手や参加者の減少により、今までどおりのやり方で講座等を行うことが難しくなっています。このため、地域で活躍するリーダーの育成や住民の地域活動への参加促進が、従来にも増して必要となっています。

一方で、ICTの飛躍的な発展は住民の日常生活に大きな変化をもたらしており、今後もこの傾向はますます強くなるものと予想されます。ICTの活用は移動の手間がなく場所を選ばずに生涯学習関係の講座が受けられるというメリットがあり、これまで生涯学習に接点の薄かった若い世代にとっては新たな参加の機会となることが期待されます。その反面、高齢者の中にはインターネットの環境がない、または使い方がわからないという方も多く、ICTのメリットを享受していく上で、その環境整備や技術的な支援が大きな課題となっています。

施策の体系



主要施策

(1) ライフステージに応じた学びの提供

幼児期、青少年期、成人期および高齢期と、人生それぞれのステージにおいて様々な背景を有するすべての人々が学びたいときに学ぶことができるよう、多様な学習ニーズに対応した学習機会の提供と環境の整備を図ります。

(2) 多様な学習機会の創出

多様化する町民の学習ニーズに対して、講座形式など集団型学習方式にとらわれず、個別あるいは少人数で行う学習活動も支援していきます。様々な情報の収集と提供に努め、ICTを活用した学習など多様な学習機会の充実を図ります。そのため、町民すべてがICTによる恩恵を享受できるような環境整備に努めるとともに、ICTのメリットを最大限にいかした取り組みを進めます。

また、命を守る防災教育の推進を図るため、町民一人一人が「自らの命は自らが守る」意識をもてるように、防災出前講座や地域の防災組織の人材育成などを進めます。

(3) 各種団体支援とリーダー育成

生涯学習を推進するためには、それに関わる行政や民間団体、個人の質の向上と指導者の確保・養成が必要なことから、スポーツ指導者や社会教育指導員の育成などを引き続き実施し、各種団体への支援と地域のリーダーの育成に努めます。

(4)生涯学習施設の充実と既存施設の利活用

町内には生涯学習施設として、公民館などの社会教育施設、体育館などの社会体育施設、小学校・中学校などの学校教育施設があります。既存施設の効果的な利活用ができるよう取り組みを進めます。

(5)町民の文化団体・活動支援

町の文化活動は、文化協会を中心として行われ、生きがいつくりや地域社会で活躍できる機会を創出しています。文化協会に対する支援を継続するとともに、新たな取り組みを模索していきます。

3 多様なスポーツ活動と健康づくりの推進

現状と課題

生涯にわたりスポーツに親しむことは、健康の増進につながるだけでなく、一人一人の「生きがい」を生み出します。

現在、本町のスポーツ活動は高校生まではスポーツ少年団、成人はスポーツ協会が中心になって活動を行っているほか、公民館事業などでもスポーツ大会を実施しています。

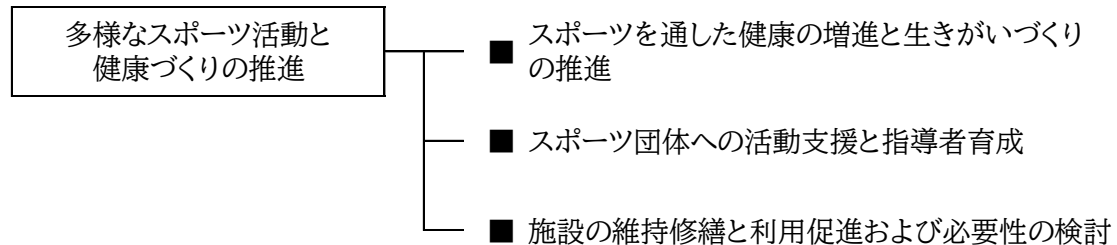
しかし、多くの競技においては参加者の減少や固定化が課題となっており、競技によっては活動休止、町内大会の中止が発生している現状があります。この傾向は今後も続くものであり、将来的にスポーツ活動自体が困難になってくることも想定されます。

今後は、参加者を積極的に募っていくとともに、各競技の実態に合わせて活動内容を整理・検討していくことが求められています。

また、より多くの人にスポーツに親しんでもらうために、従来の競技スポーツだけでなく、「レクリエーションスポーツ」や「ニュースポーツ」といった、勝敗を競うだけでなく、健康増進や仲間づくり、コミュニケーションの促進などを目的とした、体力に自信が無い方でも楽しめるスポーツを推進していくことも重要になります。

スポーツ施設については、老朽化が進んでいるものが多く、計画的に修繕・改修を行う必要があります。また、施設の利活用状況を整理し、必要性についての検討を進めていくことも課題となります。

施策の体系



主要施策

(1) スポーツを通した健康の増進と生きがいづくりの推進

スポーツ協会やスポーツ少年団などと連携し、各種スポーツ大会・教室の開催をはじめ、スポーツに親しみ、活動する機会の提供を図ります。

また、新たなスポーツに対する需要についても、十分な活動ができるように適切な支援・協力を行っていきます。

(2) スポーツ団体への活動支援と指導者育成

地域のスポーツ振興の核となるスポーツ団体やスポーツ少年団が十分な活動ができるように、今後も各種支援を実施していきます。

また、多様化する住民のスポーツニーズに対応するため、適切な提案・指導・助言を行えるスポーツ推進委員などの人材を確保していきます。

(3) 施設の維持修繕と利用促進および必要性の検討

各スポーツ施設の老朽化への対応や安全性の確保、有効利用のため、必要な修繕や改修を計画的に進めていきます。

また、各施設の利活用状況を整理し、今後の必要性について検討していくとともに、今までスポーツと疎遠だった人でも気軽にスポーツに親しんでもらうために、競技スポーツの他にも、健康増進や仲間づくり、コミュニケーション促進などを目的としたスポーツの推進を図っていきます。

4 伝統文化・歴史資源の継承と活用

現状と課題

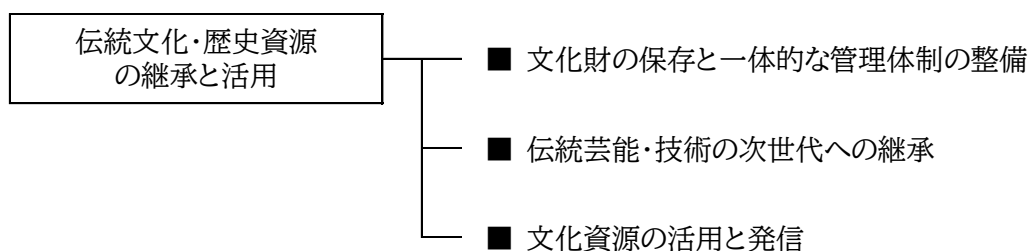
文化や歴史は、人と人をつなぎ、地域間の新たな連携へと導いてゆくよりどころとなるものです。町の未来を構想するためには、地域が培ってきた文化・歴史・風土を離れてそのあり方を探ることはできません。

町は現在、奥会津7町村による連携事業「奥会津ミュージアム」の一員として、奥会津地域の「暮らしと生業の場を、あるがままに生きられた博物館にみてるエコ・ミュージアム」活動の実践に参加しています。この活動の出発点になるのは、今まで見過ごされがちだったこの地域の文化・歴史・風土を新たに発見することであり、そのことを踏まえて、町内エコ・ミュージアム活動を進める必要があります。

町の歴史は、町内遺跡から発掘された土器によって4,000年の昔まで遡ることが確認されています。それらの土器をつくった技は、文化的な連続性によって現代へとつながるものであり、地域のアイデンティティの核となるものです。こうしたものづくりの歴史は将来へと受け継がれるべきものであり、伝統文化の継承を考えると、100年単位で考えるのではなく、はるかに長い時間の広がり意識する必要があります。

戦後の日本が歩んできた大きな社会的変化の波に飲み込まれ、過疎や高齢化、地域活力の低下といった現実と直面している当町にあって、伝統文化の継承は、持続可能なまちづくりとあわせて重要な課題であり、その意義を見失わないことが大切です。

施策の体系



主要施策

(1) 文化財の保存と一体的な管理体制の整備

町に多く残る文化財を適切に保存するため、学芸員など専門的な知識を有する人材を確保し、文化財調査委員や文化財保護管理者と連携し、各種調査を実施するとともに、後世に引き継ぐ史跡や文化財を一元的に保護・保管・整理することを検討します。

また、町内各所に分散している歴史・文化に関わる史料を適切に収集・保存し、次世代へと継承していくため、適切な保存・管理体制づくりを進めます。あわせて、遊休施設等を活用した文化資源の保管・利活用についても検討し、貴重な史料等が良い状態で後世に残される取り組みを行います。

(2) 伝統芸能・技術の次世代への継承

過去から現在へと続いてきた貴重な伝統芸能・技術を未来へとつなげていくために、町内の芸能・技術にかかる資料を適切に収集、保存し、見て・触れて・体験して、楽しみながら郷土を学べる機会を作り、郷土愛の充実に努めます。

(3) 文化資源の活用と発信

優れた文化資源に触れ、学ぶことは、住民の生活を豊かにするものであり、その重要性は高いため、誰もが身近に文化資源に触れる機会をつくるとともに、普及に努めます。そのために、交流・連携の機会を創出し、文化資源の活用にも努めます。

また、地域資源としての文化資源に光をあてることによって観光交流につなげるなど、交流人口拡大の面からも活用と発信を行います。

令和 8 年度 地域一体型ふるさと教育事業実施計画

1 目 的	保・小・中・高での教育の充実と地域の教育力の再生により、将来を担う人材の育成を 18 年間通して行う。
2 キャッチフレーズ	奥会津金山学びの 18 年
3 発達課題	○ 18 年間の発達課題に留意し、乳幼児、児童、生徒の特性をおさえた事業とする。
4 事業推進の基本方針	(1) 金山町での子育てと教育のよさを関係各位に実感してもらえる事業とする。 (2) 町内の保育所、小学校、中学校、高等学校の連携を強化する事業とする。 (3) 保・小・中・高の各教育機関が地域からの支援を得られる事業とする。 (4) 18 年間の学びの終わりとなる金山町に位置する福島県立川口高等学校の魅力向上に繋がる事業とする。
5 事業の柱立て	○ 次のような子どもが育つ事業を柱とする。 (1) 乳幼児の段階では、心・体・頭の丈夫な子どもになる。 (2) 小学生の段階では、学ぶ喜びを持つ児童になる。 (3) 中学校の段階では、チャレンジする生徒になる。 (4) 高校生の段階では、感謝される生徒になる。 ○ 上記の各段階に共通して期待される子どもの姿は、「自信と誇りを持って行動する」ことである。
6 具体的な事業内容	○ 具体的な事業内容は後出のとおり定めるが、町議会や各種審査会等の意見を尊重しながら、事業の推進にあたる。また、本事業が変革期に来ているとの指摘もあり、評価の高い事業は継続しながらも、住民ニーズに反映させ、新たな変化を加え良い事業展開を模索しながら推進していきます。

奥会津金山 学びの 18 年

「郷土を担う心豊かな人間の育成」

ふるさと金山町の自然・文化・行事・地域の人に触れる等の活動を計画的に体験させ、金山町の良さを知り、金山町に誇りを持つ児童生徒を育てます。

学校と家庭・地域が連携し、児童・生徒の生活習慣の確立と学力の向上、人間性の育成を推進します

段階	キャッチフレーズ	目 標	重視したい実践事項
乳 幼 児	じょうぶな こどもになろう	1 金山のよさ、雪国のよさ 2 子育ての中心となる親の姿 (家庭のしつけの再確認と実践) 3 町外に向けた子育て	○ 睡眠（早寝・早起き） ○ 食事（特に、朝食） ○ 遊び（一人遊びからの脱却） ○ 愛情（親のスキンシップ）
小 学 生	学ぶ喜びを持つ 小学生になろう	1 遊びから学習への転換 学ぶ喜び、学習習慣の確立 2 睡眠、食事、運動の生活習慣 の確立 3 ふるさとに触れる体験の拡 大	○ 学校・家庭での学び (先生、仲間、集団、家族) ○ 自然の中での学び (自然のやさしさと厳しさ) ○ 地域学習の中で (ふるさとのよさ、伝統)
中 学 生	チャレンジする 中学生になろう	1 目標を持ち、自ら学ぶ姿勢 2 思いやりの心と協調性 3 最後までやり通そうとする たくましさ	○ 自己決定 自己責任の場 ○ 進路選択 キャリア教育 ○ 地域行事への参加 各種行事 まつり ○ 地域学習と問題解決 地域学習と地域への提言
高 校 生	感謝される 高校生になろう	1 自己存在感と有用感の体得 2 高校の魅力発見と発信 3 地域へのとけこみと 地域理解の促進 4 地域への貢献	○ 金山町の地域行事への参加 湖水まつり 言いたいこと発 表会等 ○ 地域の良さを発信する活動 ○ 地域ボランティア ○ 金山 PR 大使としての活動

令和 8 年 度		備 考
幼 児 教 育	【家庭教育支援事業】 1. 家庭教育学級 【保育料無料化事業】 1. 保育料の完全無料化実施 【乳幼児教育事業】 1. 乳幼児読書活動推進事業 【地域一体型ふるさと教育事業】 ○ 体操教室	※家庭教育支援事業は平成26年度から ※保育料無料化事業は平成26年度から
義 務 教 育	【地域一体型ふるさと教育事業】 1. 給食支援事業 2. 入学支援事業 3. 修学旅行等支援事業 4. 教材支援事業 5. 学力向上事業 ○ 書道教室 天体教室 森林学習 夏休み学習塾 6. 体験学習事業 7. 部活動等支援事業 8. スポーツ講習会事業 ○ 水泳教室 陸上教室 バドミントン教室 9. 児童生徒冬季スポーツ推進事業 ○ スキー教室 スキーリフト代補助 10. 各種検定受験料補助事業	※学校給食無料化、入学準備支援、修学旅行支援、学校教材無料化の4点は、平成26年度から
高 等 教 育	【地域一体型ふるさと教育事業】 1. 桐径会補助金 2. 若桐寮運営事業 3. 資格取得事業 4. 就職説明会 2回 5. 地域みらい留学事業 6.	※桐径会補助金、若桐寮の運営は平成26年度から

Ⅵ 金山町立各小・中学校の 学校教育

かねやま小学校・・・・・・・・・・ 19

金山中学校・・・・・・・・・・ 27